

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 10 月 9 日現在

機関番号：62618

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884013

研究課題名(和文)「色葉字類抄」を中心とする国語辞書史研究

研究課題名(英文)A Study of the old Japanese Dictionaries mainly on the Iroha-Jiruisho

研究代表者

藤本 灯 (Fujimoto, Akari)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変化研究領域・特任助教

研究者番号：20733017

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、平安時代の代表的な古辞書『色葉字類抄』を中心とする、日本辞書史の研究である。その内容と成果は、以下の四つから成る。『色葉字類抄』に収録された語彙の性格についての研究、「いろは字類抄」伝本の書誌調査、色葉字類抄データベースの構築、他の古辞書の研究(東京大学国語研究室蔵黒川文庫 辞書之部の書誌調査)。本研究では、以上につき調査を進め、各成果を公表することにより、本邦古辞書の研究を推進した。また最終年度にはこれまでの研究のまとめとして、単著『『色葉字類抄』の研究』を刊行した。

研究成果の概要(英文)：This is a study of early Japanese dictionaries, especially the Iroha Jiruisho. The contents of the research are as follows:

1. A study of the features of the vocabulary recorded in Iroha Jiruisho. 2. Bibliographic investigation of various editions of Iroha Jiruisho (いろは字類抄). 3. Construction of a database of the contents of Iroha Jiruisho. 4. A study of other dictionaries, including the editing of a catalog of the books in the KUROKAWA collection.

During the research period, all of the above tasks were completed as planned. In addition, a book entitled The Study of IROHA JIRUISHO was published, which contains the results of the research after many years of study.

研究分野：日本語学

キーワード：色葉字類抄 古辞書

1. 研究開始当初の背景

『色葉字類抄』(字類抄)の研究は明治期以来盛んに行われてきたが、それらは特に三巻本と一〇巻本を中心とする諸本の系統関係に重きが置かれてきた面があり、肝心の収録語彙に関する分析は極めて限定的な範囲でしか行われてこなかった。また1990年代以降は、辞書の書式(例えば使用される記号の意味)等の、細分化された内容についての分析が主流となり、多角的視野から辞書の全体像を解明することを目的とするような調査・研究は却って下火となっていたため、報告者は、『色葉字類抄』収録語彙の性格、延いては本書の全体像を明らかにしようとする目的の下、修士課程在学中の2005年に研究を開始した。2013年度に東京大学に提出した博士論文『『色葉字類抄』の研究』(2014年1月学位取得)には、報告者のそれまでの字類抄研究の集大成として、収録語彙の性格、中古・中世の他文献や他辞書との影響関係、字音資料としての価値、字類抄伝本の書誌についての調査、検討結果を収めており、これは本書の研究に従来欠けていた総合的な視点から本書の性質を捉え直すことを試みたものとして、『色葉字類抄』研究史上に位置付けられる。

2. 研究の目的

本研究は『色葉字類抄』を中心とする本邦古辞書の研究である。その内容と目的は大きく次の四つに分類できる。

(1) 『色葉字類抄』収録語彙の性格についての調査・検討 収録語彙の中国の文献における出典や、日本語としての性格についての研究は、系統論に次ぎ、1950年代以降に隆盛となった。出典については佐藤喜代治(『色葉字類抄略注』/1995)、語の性格については峰岸明(『色葉字類抄研究並びに総合索引』/1977)の研究が代表的であり、特に峰岸が本書語彙の記録語(公家日記の用語)としての性格を指摘した功績は大きい。さらに報告者は、博士論文において、本書が和漢混淆文の用語を始めとする雑多な性質の語句を収めるものであることを実証的に解明したが、一方で、調査の対象から省いた語群も少なからずあり、より確実なことを述べるためには本書のより多くの語彙について、同様の調査を網羅的に行うことが必須となる。本研究では新たな研究成果を口頭発表ないし論文の形で公表することを目的とする。

(2) 『色葉字類抄』伝本の書誌調査 『色葉字類抄』の伝本(主に江戸時代の写本)は全国に70点以上が伝存しているが、現在までにこれらを網羅的に調査した研究は存在しなかった。報告者は本書がいかに伝えられ、享受されていったかを明らかにするために、

全国の写本所蔵機関に赴き、閲覧可能な写本についての書誌調査を行ってきたが、本研究では、調査を継続するとともに、各写本についてのより詳細なデータを収集し、そのデータを元に比較検討した成果を口頭発表ないし論文の形で公表することを目的とする。

(3) 『色葉字類抄』収録語彙のデータベース化作業 『色葉字類抄』の語を一般に利用できる形で公開することを目指す。既に私に作成した既存のデータベースについて、システムで運用可能な形式に変換する作業を行い、段階的に運用していくことを目的とする。またその構築過程を口頭発表ないし論文の形で公表する。

(4) 他古辞書に関する調査 東京大学国語研究室所蔵「黒川文庫」辞書之部の書誌調査を行い、調査結果を発表することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 『色葉字類抄』収録語彙の性格についての調査・検討 『色葉字類抄』の意義分類二一部のうち、報告者が博士論文までに扱った部門は「光彩部」「重点部」「畳字部」「国郡部」「名字部」の五部であった。これに、新たに「雑物部」(「軸チク」「冠カウフリ」等を収録するが、そもそも「雑物」とは何を指すのかが自明ではない)、「人事部」(「計ハカラウ」等を収録するが、「励ハケム」などを収録する「辞字部」との差が自明ではない)を加えることにより、本書所収語彙の性格、本書の編纂過程、また平安時代院政期の語句への分類意識といった点に迫ることとする。

(2) 『色葉字類抄』伝本の書誌調査 以下の手段で写本の複製を試み、これを元に、各写本の来歴について検討を行う。

撮影が許される写本については可能な限り撮影を行う。

複製が許される写本についてはマイクロフィルム、紙焼き等による複製を行う。

撮影も複写も許されない写本については、所蔵機関に赴き、筆写により主要な写本との校合作業を行う。

(3) 『色葉字類抄』収録語彙のデータベース化作業 三巻本『色葉字類抄』収録語彙の私用データを、公開データベース用に書き換える作業を行う。またその際、データの点検を大学院生等に、システムの構築及び運営を外部の専門家に依頼して行う。

(4) 他古辞書に関する調査 「黒川文庫」辞書之部の書誌調査 東京大学大学院生等数名とともに、引き続き調査を行い、平成27年度までに完了させる。また、各前年までに作成したデータの修正を行う。

4. 研究成果

(1) 『色葉字類抄』収録語彙の性格についての調査・検討 平成26年10月には日本語学会(『色葉字類抄』の分類意識 「人事」「辞字」部の動詞形項目の配置を中心に)、同年11月には訓点語学会(『色葉字類抄』「雑物部」の研究)にてそれぞれ口頭発表を行い、日本語学会の口頭発表に対し、「2014年度日本語学会秋季大会発表賞」が授与された。また日本語学会での発表内容の一部は「日本語学論集」第11号に投稿し、掲載された(「三巻本『色葉字類抄』人事部・辞字部の性質」)。

(2) 『色葉字類抄』伝本の書誌調査 平成26年度は、山田孝雄文庫(富山市立図書館)にて、山田孝雄『色葉字類抄』解説の自筆稿本や、花山院本「伊呂波字類抄」等について、撮影、調査を行った。またこの結果を反映した原稿を「訓点語と訓点資料」第134輯に投稿し、掲載された。(「いろは字類抄」伝本研究 調査報告を中心として)。平成27年度は国立国会図書館、東京大学、龍門文庫、國學院大学にて「いろは字類抄」の撮影ないし調査を行い、これらの成果は平成28年2月に刊行された著書『色葉字類抄』の研究』上にて公開した。

(3) 『色葉字類抄』収録語彙のデータベース化作業 「色葉字類抄」データベースは試用版からURLを東京大学に移動し、データ化作業を進めた。またその過程につき、平成27年11月に「色葉字類抄データベースの構築と展望」(訓点語学会) 平成28年2月に「古辞書データベース構築の過程 院政期の国語辞書『色葉字類抄』を例に」(人文科学とデータベース)と題した発表を行い、報告した。

(4)他の古辞書に関する調査 「黒川文庫」辞書之部の書誌調査 平成27年度は「は~よ」、平成28年度は「ら~を」の部につき調査を進め、それぞれ調査結果を「日本語学論集」第11・12号に投稿し、掲載された(藤本灯・林禊映・田中草大・南雲千香子・小野響太「東京大学国語研究室蔵黒川文庫目録<辞書之部>は~よ(ら~を)」)。

また、平成28年2月にはこれまでの報告者の研究をまとめた『色葉字類抄』の研究』(勉誠出版株式会社)を刊行した。また平成28年3月には、本書に収録した論文の一つである「字音からみた三巻本『色葉字類抄』「仏法部」の性質」に対して「漢検漢字文化研究奨励賞(優秀賞)」が授与された。

以上は、交付申請書の「研究の目的」に記した、(1)『色葉字類抄』収録語彙の性格についての調査・検討、(2)『色葉字類抄』伝本の書誌調査、(3)『色葉字類抄』収録語彙の

データベース化作業、(4)「黒川文庫」辞書之部の書誌調査、の四点について、各実施計画を予定通り遂行したものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

藤本 灯・林 禊映・田中 草大・南雲 千香子・小野響太、東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録 辞書之部 ら~を、査読無、日本語学論集 12、pp53-84、2016

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/59339>

藤本 灯、三巻本『色葉字類抄』人事部・辞字部の性質、査読無、日本語学論集 11、pp1-10、2015

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/56620>

藤本 灯・林 禊映・田中 草大・南雲 千香子・小野響太、東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録 辞書之部 は~よ、査読無、日本語学論集 11、pp26-74、2015

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/56622>

藤本 灯、「いろは字類抄」伝本研究 調査報告を中心として、査読有、訓点語と訓点資料 134、pp58-70、2015

[学会発表](計 4 件)

藤本 灯・志村 誠・津村 昌祐・北崎 勇帆、古辞書データベース構築の過程 院政期の国語辞書『色葉字類抄』を例に、第21回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」、2016年2月27日、同志社大学(京都府・京都市)

藤本 灯、色葉字類抄データベースの構築と展望、第113回訓点語学会研究発表会、2015年11月8日、東京大学(東京都・文京区)

藤本 灯、『色葉字類抄』「雑物部」の研究、第111回訓点語学会研究発表会、2014年11月2日、東京大学(東京都・文京区)

藤本 灯、『色葉字類抄』の分類意識 「人事」「辞字」部の動詞形項目の配置を中心に、日本語学会2014年度秋季大会、2014年10月19日、北海道大学(北海道・札幌市)

[図書](計 1 件)

藤本 灯、勉誠出版株式会社、『色葉字類抄』の研究、2016、816頁

[産業財産権]

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://jiruisho.l.u-tokyo.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤本 灯 (FUJIMOTO, Akari)

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立国語研究所・理論・構造研究系・特任助教

研究者番号：20733017

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：